

防災への取組み ～防災部会の設立～ 城山地区地域づくり活動協議会会長、城山町一丁目区長 田中茂夫

城山地区地域づくり活動協議会の平成28年運営委員会において、新たに取り組む事業を①文化的な事業、②安心・安全への取組みと二つ決めました。①の取組みは城山公民館及び生涯学習推進員の会の尽力により文化祭、音楽会及び雑学おはなしの会等の行事を実施できるようになりました。②の取組みは、防災知識を持つ人材が見当たらなかったため進展できませんでした。最近防災士資格を取得された方3名の協力が得られ、防災力の向上を目的として「防災部会」を令和5年度に設立できました。防災への取組みは、部会の役員等だけがやるものではなく、校区全員で取り組む必要があります。住民全員で校区の防災力を向上しましょう。



防災新聞創刊にあたり 城山地区地域づくり活動協議会防災部会部会長 城山町二丁目区長 笠原了

“天災（災害）は忘れた頃にやって来る、著名な寺田寅彦の言葉です。城山町は誕生して40年が経過しました。また見晴台団地では50年が経過しています。当校区でも2013年の東日本大震災時では屋根瓦等が落下する被害や2014年の大雪で駐車場の崩壊や自家用車の破損が起きたことは記憶に新しいところです。幸いに当城山校区は人命に係わるような大災害はなかったと思います。しかし、関東大震災から100年が経つ今年、首都直下型地震発生後の大規模被災の懸念が大きくとりあげられています。また地球温暖化による気象変動で短時間内集中豪雨による河川の氾濫・土砂崩れなどによる水害は毎年全国各地で発生し人命も失われています。私たちは今まで被害に遭わなかったことで、安全神話に寄りかかりすぎてはいないでしょうか。毎年行っている防災訓練の参加者も少なく、固定化してきています。このような中、地域づくりの一環として防災活動を取り上げ、城山地区地域づくり活動協議会に防災部会を設置し、城山町一丁目、二丁目及び見晴台の各自主防災会と連携して防災啓発活動を行い、少しでも防災意識向上に寄与できればと考えています。防災新聞の発行はその第一弾の活動であり、今後も継続的に発行していく予定です。城山校区の防災力向上、各ご家庭の防災の備えの一助になれば幸いです。



城山地区地域づくり活動協議会 防災部会 名簿 令和5年4月1日現在

No	構成メンバー	氏 名	備 考	No	構成メンバー	氏 名	備 考
1	一丁目区長	田中茂夫		7	二丁目副区長	増村悟樹	防災士
2	二丁目区長	笠原 了	部会長	8	見晴台自主防災会	小谷野康弘	
3	見晴台区長	櫻井映一		9	城山校区HP担当	唐橋正夫	
4	城山公民館長	荒井道明		10	事務局長	峯松伸男	防災士
5	経大名誉教授	大宮 登		11	事務局	井野口典夫	防災士
6	一丁目副区長	畠山英雄		合計11名			

防災への取組み

見晴台区長 櫻井映一

これまで城山公民館等を会場にした防災訓練に参加してきました。また、災害時に備え非常食・水・ヘルメット・救助資機材・その他を見晴台公民館に備蓄し住民に周知してきました。しかし、城山公民館等を会場にした訓練では極めて少数の者しか参加できず、防災に対する実践力・意識・連帯感等を高めることは難しいと考えてきました。また、見晴台は坂が多く高齢者も増え、安否確認や避難の仕方、生き抜くための準備（自助、共助）をどうするのかなど数年前から問題点が指摘されていました。今後は校区防災訓練の他、見晴台公民館を会場に住民の防災研修会を実施し、上記の課題を解決すべきと考えています。城山校区防災部会や防災の専門家等を招いて安心、安全、助け合いのできる町内会の充実を図る予定です。♡見晴台♡



<始めましょう防災備蓄>

- ・一昨年に町で**防災アンケート**を実施致しました。
高い割合で、この町にも何らかの自然災害があると思う
しかし、**備蓄は不十分**・・・これが町の実情です。
- ・**長雨が続いたある夏の夜に、ぐらぐらっと大きな揺れで
飛び起きました。その時貴方は、備蓄アリ？ ギリギリス？**
災害への備え有り無しで、その後の生活に大きな差が出ます。



今回、取り上げるのは長時間断水への備えです。

令和5年改定版高崎市ハザードマップが配布され城山校区の懸念個所は①中山峠からの道路②見晴台側面となっていますが、長雨と首都直下型地震が重なった場合は校区でも様々な懸念があります。

ポンプ施設、貯水施設は城山校区、みどりが丘の4町内の**水道生命線**ですが

此処に何らかの支障が発生した場合は**長時間断水の懸念**があります。

すぐに給水車は来ませんし、町に大量の水の備蓄もありません。

でも我が家では、水の備蓄は大丈夫！・・・この機に、ぜひ取り組みを始めましょう。

(1) 「防災備蓄始めるよ！」 最初は水からだね！・・・ご家族で確認しましょう！

2人家族の目安 飲料水2箱+予備（お茶や麦茶もOK）

飲料水 普段使っているものなら何でもOK

500ml24本 或いは 2ℓ6本



プラス
予備

お茶又は麦茶

500ml24本



・古い順に消費し、補充しましょう。

・ペットボトルで大丈夫です。

長期保存と書かれているボトルは容器が厚く
長期保存時の蒸発を防いでいます。

使っては補充を繰り返している場合は
一般的なペットボトルで問題ありません

・お茶も含めても大丈夫です。

4人家族ならば 4箱+予備（2箱は用意したいですね）

<参考>

大人一人一日約3ℓ（食事、飲み水、うがいなど）が必要

おおよそ一日に2.5ℓ体から汗、排泄で出ていきます

重くてとても箱買いは出来ない場合は、
空き段ボール箱やプラスチックの保管箱
などを利用してペットボトルを徐々に
貯めていきましょう。

(2) ポリタンクに**水道の水で備蓄はできますか？**・・・こう考える方も多いと思います。



ご承知の様に、水道水にはカルキが含まれ、雑菌が増えるのを抑えています。

通常カルキは数日で無くなってしまいますが、その後は一気に雑菌が増殖します。

一見、きれいな水もこのままでは飲めません。飲んではいけません。

でもしかし、この備蓄水は生活水として様々な利用が出来ます。

ポリタンクは、もし給水車が来るような事態の場合は必要ですね。

(3) その他 上記は生命維持の為の説明をしましたが、**高齢化世帯では健康維持、清潔維持に特に配慮が
必要です。**では、お風呂、洗面、手洗い、トイレなどの断水対応はどうする？

今後の取り組みとして防災新聞、ホームページ、回覧、防災講話、防災訓練、防災展示などを通じて

こんな時どうする？ を皆様と共に考え、備えていきたいと思っています。

編集後記 防災新聞は年3回発行を予定しています。 6月号、10月号、2月号

①防災委員メッセージ ②防災トピックス ③始めましょう！防災備蓄 を基本として、更には「こんな体験しました」など皆様の体験記、防災に関する皆様のご意見を反映し内容を充実化していきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

編集委員（荒井、峯松、唐橋、小谷野）